

第 85 号

平成30年10月15日 発行

茶業会議所広報

発行所
(公社)静岡県茶業会議所
静岡市葵区北番町 81 番地
電話 〈054〉271-5271(代)
FAX 〈054〉252-0331
http://shizuoka-cha.com/

● クチコミによる情報発信の強化を進めています。 ●

2020年の東京オリンピック・パラリンピックなどを控え、今後、訪日外国人等の増加が見込まれることから、平成29年度より、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などを活用して、静岡茶の魅力を国内外の多くの方に情報発信する事業を進めています。

具体的には、大手通信社が運営する外国人向けコミュニティーサイト(City-Cost)内に静岡茶の魅力を発信するサイト「Shizuoka Green Tea Guide(英語版、日本語版)」を立ち上げ、色々な視点での情報発信を行っており、今年度もコンテンツの強化に取組んでいます。

また、静岡ティーレポーター(30年度は日本人5名、外国人5名)によるレポートやSNSの活用などにより、静岡茶の魅力の発信・拡散を図っております。

このような取組みにより、静岡県への訪問を促し、美味しい静岡茶を飲む機会を創出し、静岡茶のファン創出を図り、お茶の消費拡大に繋げることを目的として進めています。

なお、詳細は、静岡緑茶ガイド https://www.city-cost.com/ja/guides/shizuoka-green_tea をご覧下さい。

また、City-Costの公式Twitter・Facebookにおいて、英語による静岡茶の魅力を発信しています。

日本語版のTwitter・Facebook・Instagramも開設し、情報発信を行っていますので、ご覧下さい。



【Twitter】 https://twitter.com/Shizuoka_GreenT

【Facebook】 <https://www.facebook.com/ShizuokaGreenTeaGuide/>

【Instagram】 https://www.instagram.com/shizuoka_greentea_guide/



平成30年4月、約150名の中から静岡ティーレポーターとして、20~30代の女性5名が選ばれました。「Team Shizuoka Green T(チーム・シズオカグリーンティー)」として、早速SNSなどにより、水出し緑茶の楽しみ方などの情報を発信し、静岡茶のPR活動に励んでおります。



29年度より、美味しい静岡茶が楽しく飲めて、茶に関して色々学べる処として、「静岡茶屋」の設置を進めています。統一した幟「静岡茶屋」を立てるお店が続々と誕生しています。(平成30年8月 現在34店舗)

今後は、賑わいのある茶処、売れるお茶店舗作りを目指した講座等を開催し、消費拡大に努めていきます。

「静岡茶屋」の開設・推進

おいしい静岡茶の飲めるお店「静岡茶屋」を推進、平成30年8月の時点、34店舗を認定している。



静岡茶ブランドのグローバル化

外国人を対象にしたティスティング

インバウンドを対象に静岡茶の魅力を知ってもらい、購入促進を図るため、静岡市で開催された「世界囲碁まつり」を活用し、来場者に、出品茶のガイドブック（日本語版、英語版）を配布し、各種静岡茶（16種）のティスティングを2日間実施した。

延べ700名がイベントへ参加した。



静岡市市民文化会館（平成30年2月）

茶業界に活を入れ明快な展望を開く

茶業セミナー2018の開催

次世代茶業に向けて、今日的な二つのテーマでセミナーを開催し120名の参加があった。

第1部「緑茶飲料市場の動向から探る茶の未来」

講師：（株）日刊経済通信社 稲野結子

第2部「戦略的な情報発信による静岡茶のブランディング」 講師：（株）共同通信デジタル 杉本英之



静岡茶おもてなしセミナーの開催

店頭における静岡茶の販売力アップを目的として「これからは、販売力と提案力で差をつける」を演題に、（株）S・Yワークス 福地千里氏を講師に招き、セミナーを開催し80名の参加があった。



静岡市パルシェ会議室（平成30年3月2日）

静岡茶消費拡大ワークショップ

ワークショップの開催

多様な分野の人たちの視点で、お

茶の消費拡大への提案を頂くため、ワークショップを5回開催した。提案された意見を会員団体等へ提供するとともに、本会の今後の開発や取組の資とした。



第1回9月13日（静岡市）



第2回10月4日（静岡市）



第3回11月8日（東京都新橋）



第4回12月6日（静岡市）

ワークショップ概要一覧

回	時期	場所	参加対象者	ショッピング	ワークショップの目的
1	9月13日	静岡市	県内の茶生産者7人及び茶商7人計14人	静岡のお茶の未来を考える	静岡県のこれから茶業の担い手の視点から静岡茶業の現状と課題に対する認識を共有し、理想の未来を描く。
2	10月4日	静岡市	茶業界以外の業種や消費者計15人	県内の消費者・異業種の方、アイデア出しワークショップ	静岡ならではのお茶の価値や創造の方向性を探索。静岡ならではの魅力的なお茶の価値や提案が考えられないか、県内の茶業者以外の視点等交え、アイデア創発を図る。
3	11月8日	東京都新橋	消費地の女性（2グループ×4人）計8人	関東・東京首都圏消費者インタビュー&アイデア出し	リーフや産地に対する消費者の認識と現状を把握し、消費者がお茶やお茶の時間に求めている価値を探る。消費者の視点で、リーフのお茶が飲みなくなるというアイデアを考えもらう。
4	12月6日	静岡市	1と2の参加者を中心、生産者3、茶商5、異業種2、消費者2人計12人	県内生産者・茶商の皆さんでアイデアを選ぶ・磨く	1~3のワークショップで出たアイデアの共有、お茶の消費者を子どものいる家庭と大人の女性に特定し、それぞれお茶をもっと飲んでもらうための具体的なアイデアの創出
5	2月27日	静岡市	茶業会議所事業委員会委員	全体会検討会	1~4回のワークショップの概要を報告するとともに、今後の取組を検討

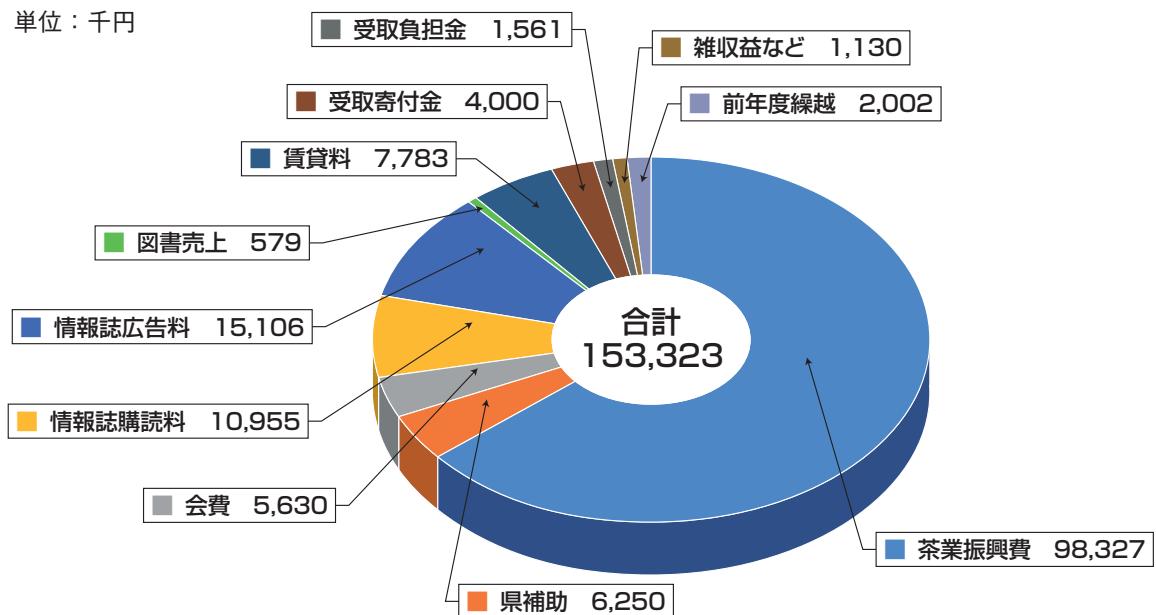
◆ 平成29年度決算 ◆

平成29年度事業につきましては、平成30年6月25日(月)に開催した総会において承認されました。

■ 皆様の茶業振興費は、このように使われました。

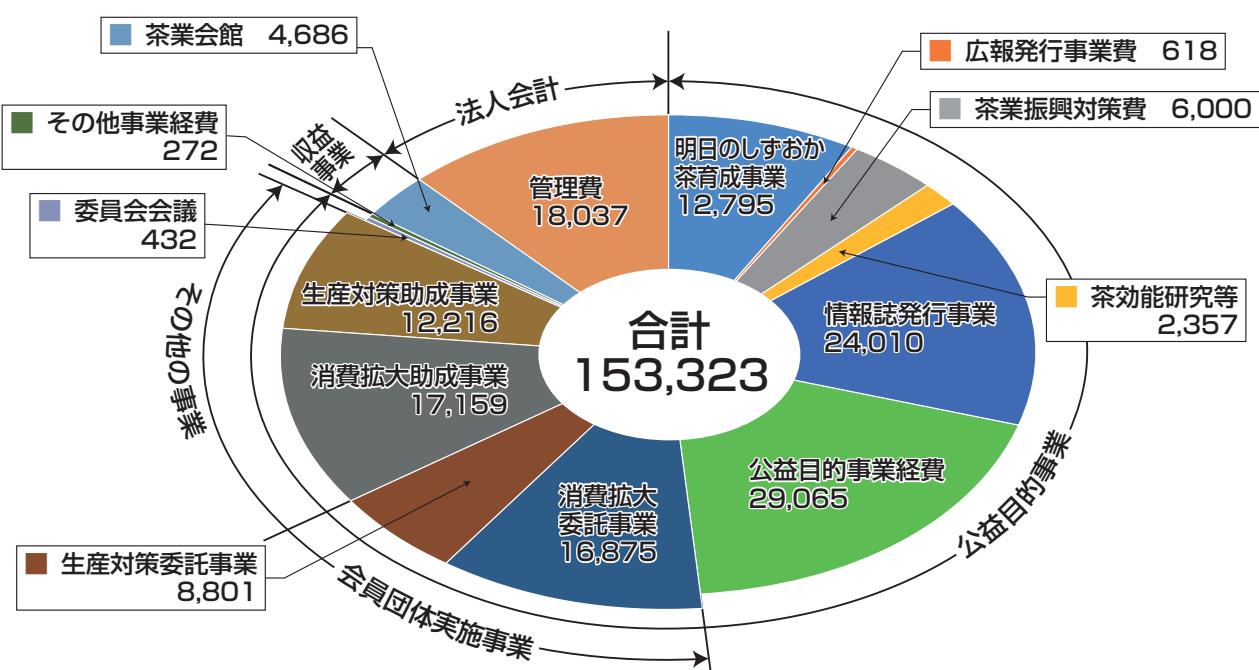
■ 収入

単位：千円



■ 支出

単位：千円



平成29年度事業報告

1 明日のしづおか茶育成事業

(1) しづおか茶安心づくり事業

ア T-GAPの推進

静岡茶の信頼と信用を一層強固なものとし、消費者からの支持を獲得するべく、GAPの推進を図った。県内茶工場を対象に、労働基準監督署、社会保険労務士、日本GAP協会を講師に、労働基準法と農業、労務管理の基礎知識などについての研修会を開催した。認定工場へT-GAPの今後の進め方についてアンケート調査を実施した。

イ 静岡茶衛生管理者のスキルアップ研修

初心者を対象にした衛生管理基礎研修を実施した。また、近年食品業界で、義務化に向けて急速に浸透するHACCPの基礎知識の講座を実施した。

(2) しづおか茶ファン創出事業

ア 静岡茶情報発信

静岡茶の产地、製造法、歴史、効能機能性、安全性などを説明するパンフレット「お茶のしづおか」、「ワクワクお茶のたんけん隊」を作成し配布した。

イ 緑茶人間の拡大～口コミによる静岡茶PR～

SNS等により静岡茶の魅力を発信する「静岡ティーレポーター」を18名（日本人9名、外国人9名（7か国））に委嘱し、ブログ、サイトへの投稿などによる魅力発信を行なった他、在日外国人向けコミュニティーサイト「City-Cost」に、静岡茶の魅力を発信する「Shizuoka Green Tea Guide」を開設し、歴史や景観、イベントなどの情報発信の他、静岡ティーレポーターのレポート等をアップした。このほか、「Japan Times」のトップページに「Shizuoka Green Tea Guide」のバナー掲載や47行政ジャーナルに掲載し、静岡茶のPRを実施した。お茶時期の5月に、毎週一回（計5回）ラジオK-mixの生放送（10分間）において、静岡茶のPRを行なった。

ウ 静岡茶でおもてなし

美味しい静岡茶を飲んでもらい静岡茶の購入促進を図るため「静岡茶屋」の開設と推進を行なった。「茶町KINZABURO」の静岡茶屋1号店認定以降、毎月1回審査会を実施し、3月末までに31店舗を認定した。このほか、メディア（SBSラジオパーク2018年3月25日）&雑誌「Tabi tabi 03（静岡新聞社発行）」に「静岡茶屋」を紹介し浸透を図った。このほか、各種イベント（カフェ喫茶ショー等）で、延べ10回静岡茶PRを行なった。

(3) しづおか茶販路開拓事業

ア 静岡茶ブランドのグローバル化

インバウンドを対象に静岡茶の魅力を知ってもらい、購入促進を図るため、静岡市で開催された「世界囲碁まつり」の会場において、外国人等を対象にしたティスティングコンテストを開催した。

イ 茶業界に活を入れ明快な展望を開く

茶業セミナー2018及び静岡茶おもてなしセミナーを開催した。

ウ 静岡茶消費拡大ワークショップ

多様な分野の人たちの視点でのお茶の消費拡大への提案のため、ワークショップを5回開催し、そのまとめた内容については、会員団体等へ提供するとともに、今後の開発や取組みの資とした。

2 茶業振興事業

(1) 広報・情報収集、発信事業

ホームページを随時更新し、本会の活動状況を報告した。

(2) 茶業振興対策事業

摘みたての新茶を知事に贈呈する「新茶贈呈式」や杉山彦三郎翁顕彰会記念式、茶業功績者表彰、県内各地で開催される各種茶業大会、品評会等への表彰状・副賞の交付を行なった。静岡茶魅力発信のための委託や日本茶AWARD等へ協賛を行なった。

(3) 茶の効能研究等事業

ア 茶の効能研究のための奨学寄付

県大茶学総合研究センターにおける調査研究及び人材育成を行うため、奨学寄附を行なった。

イ 茶の効能等のPR

最新の茶の機能性・効能等の研究発表会、第33回茶学

研究会講演会を開催した。

(4) 情報誌・茶業図書の発行事業

ア 月刊誌「茶」の発行

月刊誌「茶」は、茶の総合誌として生産から流通に至る茶業全体を視野に入れた編集に心掛けるとともに、茶業関連情報発信の源として内容の向上に努めた。通巻70周年となり、長年の功績を評価され、平成29年度O-CHAパイオニア賞特別賞を受賞した。

イ 茶業関連図書の発行と販売について

お茶の専門書「茶生産の最新技術（製造編）」等の販売を行なった。

(5) 委託事業

ア 静岡茶消費拡大委託事業（県茶商へ委託）

静岡茶の販売力強化を図るため、茶どころ静岡のPRに努め、本格的な緑茶ファンの獲得と茶専門店の活性化のための普及推進事業やリーフ茶の需要を喚起するための需要開拓を図るとともに、消費地専門店と連携してより効果的宣伝活動を実施するため、静岡県茶商工業協同組合へ委託事業として実施した。

イ 生産対策委託事業（県経済連へ委託）

本県茶業を維持・発展していくため、消費者ニーズに対応した良質茶の生産、基盤整備・改植の推進、品種茶の生産拡大など特色ある茶の生産を積極的に進めるとともに、安全・安心な茶づくりを進め、静岡茶ブランド力の強化を図った。第三者認証に関する取引先要望を把握し、JA茶技術員の資格取得研修を実施し、現場で指導出来る職員の育成に努めた。各種茶品評会への出品誘導・指導を行い、良質茶生産技術の強化を図った。各茶期において、生産・流通現場での情報収集及び提供に努めた。

3 収益事業

業界の拠点として、広く茶業者の利活用できるような明るい環境を整えるとともに、静岡県茶業会館の保全維持・管理ならびに円滑な運営を図った。

4 その他の事業

(1) 委員会等開催

財務委員会・事業委員会及び事務連絡会等を開催し、諸振興策を検討し、団体間の連絡調整を図った。

(2) 会員団体助成事業

ア 静岡茶消費拡大助成事業（県茶商へ助成）

近年の生活様式の多様化等により、急須で飲む喫茶習慣に代表される食文化は急速に失われつつあり、行政・生産の団体と協力・連携しながら、静岡茶の普及のため情報の収集・発信を行い、健康的で文化的な食生活と食文化の維持・緑茶の効用や知識の普及、食育の推進等に関する施策を積極的に推進した。

イ 生産対策助成事業（県経済連へ助成）

国内外の消費者に好まれる、多彩で安全・安心な静岡茶を供給するための栽培・製造、その他茶情報提供に関する各種研修会を開催した。併せて本県茶業を維持・発展していくため、地域におけるリーダー（技術指導者、後継者）を育成した。

(3) 会頭と理事との意見交換会の開催

6月に就任した上川会頭と理事による茶業の課題やその方向性についての意見交換会を開催し、その内容は、広報を通じて茶業関係者へ知らせた他、国や県への要望事項として提出した。

5 その他関連事業

(1) 静岡茶消費拡大緊急推進協議会

静岡茶の需要創出と消費拡大を主旨とし、県内の茶業関係団体が、緊密な連携の下に、オール静岡の体制で県内外において販売促進事業を実施した。

(2) 日本茶輸出促進協議会

日本茶輸出促進協議会が実施する輸出先国農薬基準による実証栽培や輸出向けの抹茶製造の実証栽培を実施し、3年計画の最終年度となり、そのとりまとめを行なった。

◆ 平成30年度予算 ◆

平成30年度の茶業振興費については、下記のとおりです。

1 茶業振興費の徴収

茶業振興費の徴収方法は、従価制とし、茶業会議所・会員及び茶業会議所が徴収を委託した(株)静岡茶市場が徴収する。

2 茶業振興費の負担額

(1) 生産割 売り手(生産者)が負担し、徴収者に預ける。

粉引後の荒茶取引額(荒茶受渡数量×単価-粉引額)×0.1%

(2) 宣伝割 売り手(生産者)、買い手がそれぞれ負担し、徴収者に預ける。

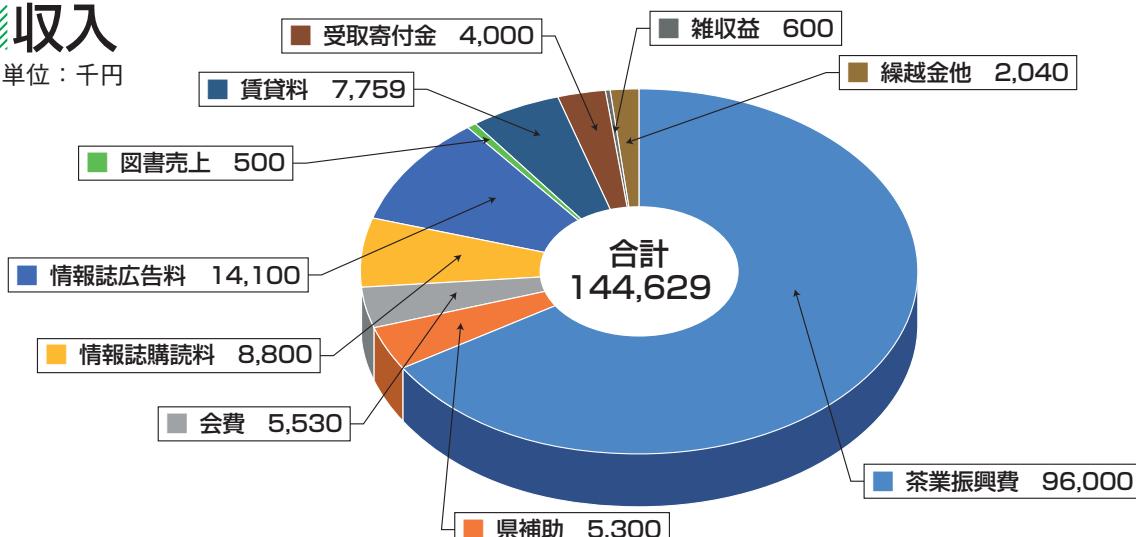
売り手負担分: 粉引後の荒茶取引額(荒茶受渡数量×単価-粉引額)×0.18%

買い手負担分: 粉引後の荒茶取引額(荒茶受渡数量×単価-粉引額)×0.18%

■ 皆様の茶業振興費は、このように使われます。

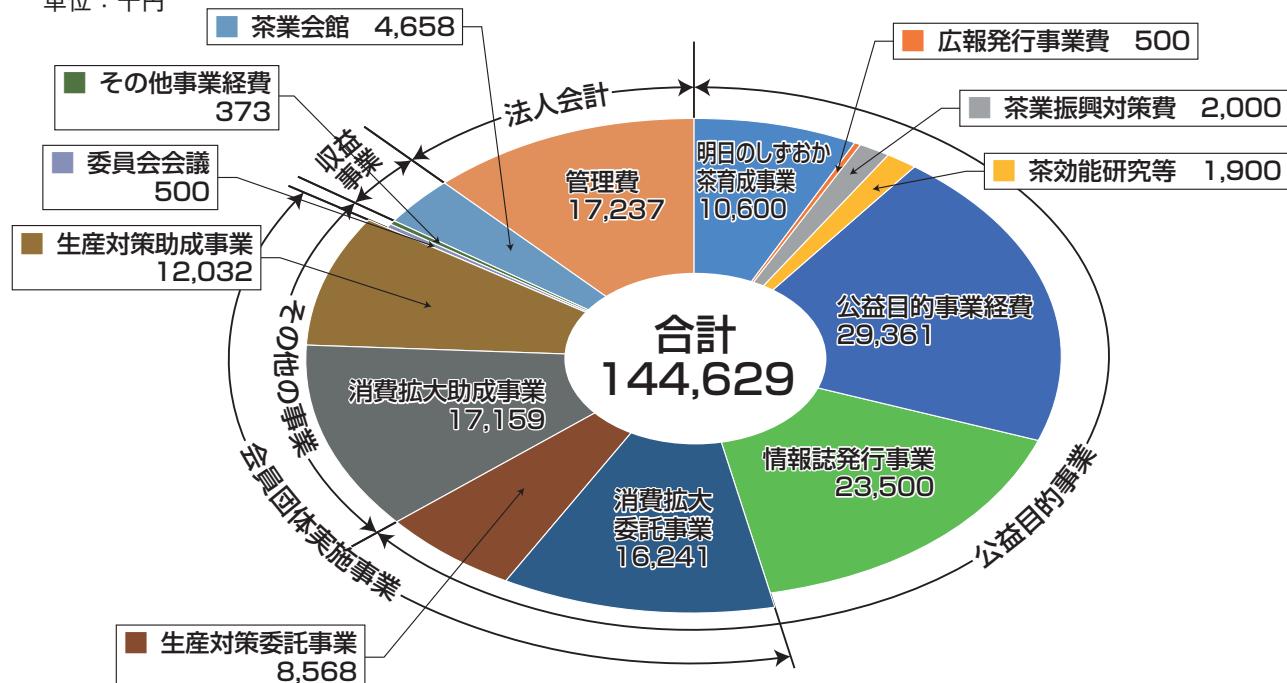
収入

単位: 千円



支出

単位: 千円



平成30年度事業計画

1 明日のしづおか茶育成事業

(1) しづおか茶安心づくり事業

静岡茶の信頼と信用を一層強固なものとし、消費者からの支持を獲得するべく、GAPの推進を図る。

静岡茶衛生管理者のスキルアップ研修（輸出拡大に向けたHACCP研修、初心者を対象にした衛生管理研修）を実施する。また、改正食品表示法に対応した緑茶表示の周知徹底を図る。

(2) しづおか茶ファン創出事業

静岡茶の産地、製造法、歴史、効能機能性、安全性などを説明するパンフレット等を作成する。

県内外・海外へ、クチコミを中心とした静岡茶の魅力発信を行なう。昨年開設したコミュニティーサイトの強化、発信力の高い静岡ティーレポーターによる情報発信、SNS（facebook・twitterの運営）を行なう。

美味しい静岡茶を飲んでもらい、静岡茶の購入促進を図る「静岡茶屋」による美味しい静岡茶の愛飲促進とインターネット上での「静岡茶屋」の紹介・検索の強化。

異業種と連携した静岡茶PRや各種イベントでの静岡茶PRを実施する。

消費者ニーズに対応した、賑わいある店づくり講座を開催する。

2 茶業振興事業

(1) 広報・情報収集、発信事業

本会が実施している事業の告知のため、広報誌を発行する。

(2) 茶業振興対策事業

茶業功績者表彰、県内各地で開催される各種茶業大会、品評会等への表彰状・副賞の交付を行ない、茶業の振興に資する。

(3) 茶の効能研究等事業

静岡県立大学茶学総合研究センターへ調査研究及び人材育成を行うため、奨学寄附を行なう。

茶学術研究会と協働で、茶の効能を広報し、嗜好飲料としてだけでなく、生態調節機能を有する保健飲料としてPRし、静岡茶の更なる消費の拡大と理解に努める。

(4) 情報誌・茶業図書の発行事業

ア 月刊誌「茶」の発行

月刊誌「茶」は、茶の総合誌として生産から流通に至る茶業全体を視野に入れた編集に心掛けるとともに、茶業関連情報発信の源として内容の向上に努める。

イ 茶業関連図書の発行と販売について

引き続き「茶生産の最新技術（製造編）」「新改訂版・目で見る茶の病害虫」をはじめとした茶業関連図書の販売に努める。

(5) 委託事業

ア 静岡茶消費拡大委託事業（県茶商へ委託）

静岡茶の販売力強化を図るため、茶どころ静岡のPRに努め、本格的な緑茶ファンの獲得と茶専門店の活性化のための普及推進事業やリーフ茶の需要を喚起するための需要開拓を図るとともに、消費地専門店と連携してより効果的宣伝活動を実施するため、静岡県茶商工業協同組合へ委託事業として実施する。

イ 生産対策委託事業（県経済連へ委託）

本県茶業を維持・発展していくため、消費者ニーズに対応した良質茶の生産、基盤整備・改植の推進、品種茶の生産拡大、全国茶品評会の開催など特色ある茶の生産を積極的に進めるとともに、安全・安心な茶づくりをすすめ、静岡茶のブランド力強化を図るため、静岡県経済農業協同組合連合会へ委託して事業を実施する。

3 収益事業

業界の拠点として、広く茶業者が利活用できるような明るい環境を整えるとともに、静岡県茶業会館の保全維持・管理ならびに円滑な運営を図る。

4 その他の事業

(1) 委員会等開催

財務委員会・事業委員会及び事務連絡会等を開催し、諸振興策を検討するとともに、団体間の連絡調整を図る。

(2) 会員団体助成事業

ア 静岡茶消費拡大助成事業（県茶商へ助成）

静岡茶の普及のため情報の収集・発信を行い、健康的で文化的な食生活と食文化の維持、緑茶の効用や知識の普及、食育の推進等に関する施策を積極的に推進するため、静岡県茶商工業協同組合へ助成事業を実施する。

イ 生産対策助成事業（県経済連へ助成）

国内外の消費者に、安全・安心な静岡茶を供給するための栽培・製造指導及び、技術指導者・後継者の各種研修会を開催する。併せて本県茶業を維持・発展していくため、地域におけるリーダーを育成、国内外にて、静岡茶の販売力強化を図るため、県内各産地のPRに努め、また静岡茶ファンの獲得等推進するため、静岡県経済農業協同組合連合会へ助成事業を実施する。

5 その他関連事業

(1) 静岡茶消費拡大緊急推進協議会

静岡茶の消費拡大対策を効果的に進めるため「静岡茶消費拡大緊急推進協議会」において、茶業団体と県が連携して実施する。

(2) 日本茶輸出促進協議会

有機抹茶のモデル地区を3ヶ所設置し、農薬及び成分分析を行なう。

生産対策委託事業（県経済連へ委託）

消費者ニーズに対応した良質茶の生産・基盤整備・改植の推進、特色ある茶の生産を積極的に進めるとともに優秀な指導者の育成確保、安全・安心な茶づくりの推進、静岡茶ブランドの確立を図るため務めた。



一番茶生育調査 H29年4月4日～18日



セル茶苗木定植指導 H30年3月18日



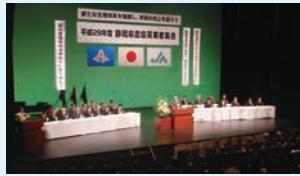
静岡県茶品評会 H29年8月1日～4日



碾茶互評会 H30年2月22日



静岡県製茶業者研修会 H29年11月30日



静岡県茶業者集会 H30年2月20日



若手農協茶技術員研修会 8月～3月



労務管理研修会 H29年9月11日

茶業振興対策事業

新茶贈呈式

摘みたての瑞々しい新茶を知事に贈呈し、静岡新茶の魅力を発信するために、知事への新茶贈呈式を開催した。



静岡県庁 平成29年4月24日



このほか、各種大会等へ会頭賞（11件）を贈呈した。

平成
30年度

平成30年度杉山賞の表彰

杉山彦三郎翁顕彰会は、平成30年5月2日駿府城公園マロニエ広場において、慰靈式と功績者の表彰を行なった。杉山賞の受賞者は次のとおりです。

・茶品種改良・普及功績賞

吉富 均（67）

・茶業振興功労賞

仲西由雄（76）

山下哲由（66）

川島 一（65）

瀧 昇悟（66）

草薙ツアーグループ



静岡茶消費拡大委託事業（県茶商へ委託）

静岡茶の販売力強化を図るため、茶処静岡のPRに務め、本格的な緑茶ファンの獲得と茶専門店の活性化のための普及推進、リーフ茶需要を喚起するための需要開拓を図った。

各種イベントによる消費宣伝事業
（静岡茶普及キャンペーん）



いろどり見本市 H29年6月6日



喫茶楽塾 H29年10月19日



クラフト展 H30年1月7日



ホテルアソシア H30年2月15日



森宮園小学校 H30年1月17日



島田商業高校 H30年1月18日



浜松市立地小学校 H29年6月22日



藤枝小学校 H29年11月28日

このほか、組合所属の地区組合においても消費宣伝事業も行っています。

茶の効能研究等事業

平成29年12月、茶の機能性などに関するセミナー「今すぐ役立つ緑茶の効能」を浜松市で開催した。平成30年3月には、カフェイン等についてのシンポジウム・特別講演会を静岡市で開催した。



浜松市 アクトタワー 平成29年12月10日



静岡市 ホテルアソシア 平成30年3月5日

平成30年度茶業功績者の表彰

本県茶業の発展向上に顕著な功績のあった者や集団を表彰し、茶業の振興に資することを目的とする功績者の表彰を平成30年6月25日に行なった。

落合錬作（89）代理出席

小玉義郎（84）

大石 進（71）

鈴木 篤（61）

